

播磨国分寺跡発掘調査報告書

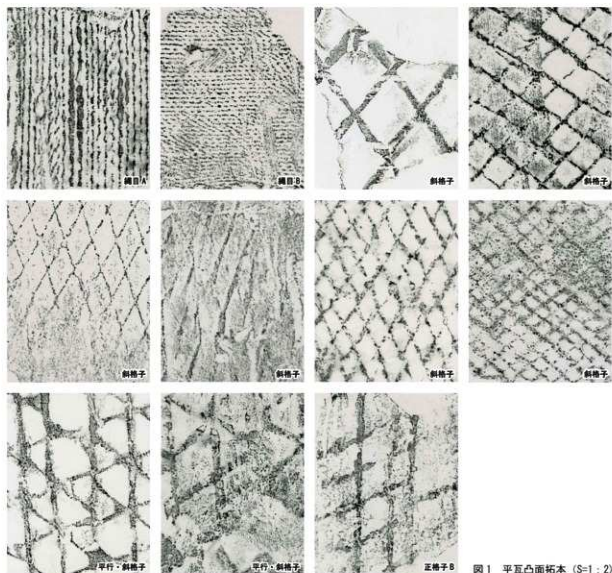


図1 平瓦凸面拓本 (S=1:2)

2017

姫路市教育委員会

1. 調査に至る経緯

姫路市御国野町分寺天神ノ木 396 番 2、399 番 2、御宇東大門 670 番、670 番 2、674 番 1 において、店舗及び立体駐車場の建設が計画された。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である播磨国分寺跡（県遺跡番号 020482）に該当しているため、平成 28 年（2016 年）3 月 10 日から 3 月 12 日の実施 3 日で確認調査を実施した（遺跡調査番号 20150518）。調査は 1.5m×1.5m の調査区が 6 箇所、2m×2m の調査区が 5 箇所計約 33 ㎡で実施した（図 3 1～11 区）。その結果、6 区を設定した調査地内半は既存の建物等により大きく破壊されていることが判明した。また、調査地北半では灰色粘土層が厚く堆積している状況で遺構は確認できなかったものの、3・7 区を中心にまとまった量の瓦が出土した。

以上の結果から、姫路市教育委員会 生涯学習部 文化財課と事業者の間で協議をおこない、事業者の協力の下に本発掘調査を実施することになった。平成 28 年 4 月 4 日に『姫路市御国野町分寺天神ノ木 396 番 2 他の開発に伴う埋蔵文化財（播磨国分寺跡）発掘調査委託契約』を締結し、翌 4 月 5 日から 4 月 9 日の実施 4 日で本発掘調査を実施した（遺跡調査番号 20160005）。調査は一辺 1.4m ないし 1.5m の調査区を 11 箇所、計約 23 ㎡でおこなった（図 3 12～22 区）。

本発掘調査終了後に出土品整理及び発掘調査報告書の作成をおこない、本書の刊行をもって事業を終了した。

2. 調査地の位置

播磨国分寺跡は、姫路市の中央部を流れる市川東岸に位置し、JR 姫路駅から東 3.5km、JR 御幸駅から北西 300m の地点にある。現在、包蔵地内側に JR 山陽本線、北半に国道 2 号が走る。

周知の埋蔵文化財包蔵地としては東西・南北約 350m の範囲が把握されており、そのうち主要伽藍を含む南西部の一辺約 200m の範囲（45,539.82 ㎡）が国指定史跡に指定されている。調査地は、指定史跡地の東隣に位置している。

3. 調査の成果

調査地の現地地盤は標高 10.8m 前後を測り、厚さ 0.7～0.8m の盛土を経て、標高約 10.0m で耕土に至る。耕土以下は、7・15 区などの例外はあるが、一部砂層を挟みつつも灰色粘土層などが厚く堆積していた。工事掘削深度が浅かった 1 区と既存建物による擾乱が顕著であった 6 区以外の全調査区で地山を確認した。地山は白色粘土層の一部グライ化がみられた。標高は最も低い 9 区で 8.7m を測り、そこから西・東に向かって高まっている状況であった。このような旧地形と堆積層の状況から、調査地は低湿地のような状況であったと考えられる。

3・7 区では灰色粘土層より上から打ち込まれた杭が残存しており、さらに 7 区などではその上に礫を多く含む盛土が認められた。以上のことから、低湿地の埋め立て作業がおこなわれたと考えられるが、その時期は不明である。

ほぼすべての調査区で遺物が出土した。特に 3・7 区の盛土などからは瓦片がまとまって出土した。平瓦が大半を占めている。全形のわかる資料はないが、凸面の拓本を表紙に掲載した（図 1）。タタキ目には「縄目 A・B」・「斜格子」・「平行・斜格子」・「正格子 B」が認められる。なお、「縄目 A」は縦位の縄目タタキ、「縄目 B」は横位の縄目タタキの類型、「平行・斜格子」は側縁に平行する縦線と斜格子が一体となる類型、「正格子 B」は格子を構成する縦線が側縁に平行し、それに交わる横線が斜交する条線があるものを指す（姫路市埋蔵文化財センター 2017）。今回は大半が破片のため、これ以上の分類はおこなわない。

また、軒平瓦は 3 点出土した（図 7）。1 は唐草文軒平瓦である。瓦当面には范范の進行が認められ、大きな段が生じている。頸形は曲線頸Ⅱである。2 は唐草文軒平瓦である。頸形は曲線頸Ⅱである。以上 2 点は今里幾次氏の提唱する「播磨国府系瓦」で、前者が「長坂寺式」、後者が「国分寺式」と呼ばれる。今里氏の年代観では「国分寺式」が 740 年代、「長坂寺式」は「国分寺式」より後出で 8 世紀中頃とされている（今里 1978）。一方、3 は唐草文軒平瓦で、京都市法勝寺金堂から同文の資料が出土しており、11 世紀後葉の年代が与えられている（原上 2014）。

その他、2 区の灰色粘土層からは埴が出土した（図 7-4）。白色を呈し、厚さは 5.2cm を測る。

4. 総括

国指定史跡播磨国分寺跡の東隣で調査をおこない、調査地は低湿地であったことが判明した。また、低湿地の堆積層（灰色粘土層）及び低湿地埋め立てに伴うとみられる盛土からは瓦が出土した。瓦には磨滅がみられないことから、播磨国分寺に属していたものと考えられる。

【参考文献】

- 今里幾次 1978 『播磨国の瓦葺駅家』『古代山陽道の検討』（古代を考える 17）古代を考える会
- 今里幾次 1995 『播磨古瓦の研究』真福社
- 原真真 2014 『古代の終焉と播磨の瓦生産』『明石の古代Ⅱ』発掘された明石の歴史実行委員会
- 奈良国立文化財研究所 1991 『平城宮発掘調査報告書ⅩⅢ』（奈良国立文化財研究所学報第 50 冊）
- 姫路市埋蔵文化財センター 2017 『姫路域域下町跡—姫路域跡第 338 次発掘調査報告書—』（姫路市埋蔵文化財センター調査報告第 43 集）
- 山本博利・山本和子・今里幾次 2010 『播磨国分寺跡』『姫路市史』第 7 巻 姫路市

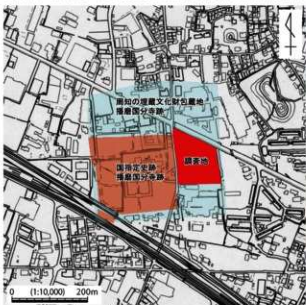


図 2 調査地位置図 (S=1:10,000)



写真 1 調査地から国指定史跡播磨国分寺跡を望む（北から）

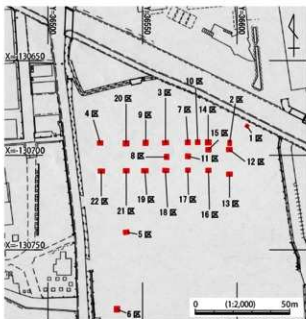


図3 調査区配置図 (S=1:2,000)

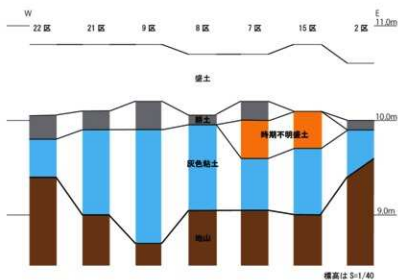


図4 土層柱状模式図

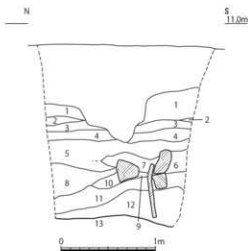


図5 3区東壁断面図 (S=1:40)

1. 雑土
2. 雑土
3. 5G76/1 粘質土層：極細砂、しまりやや弱、粘性やや強。
4. 2.5Y8/1 粘質土層：シルト、しまりやや弱、粘性強。
5. 10Y86/1 粘質土層：シルト、しまりやや弱、粘性強。
6. 10Y85/1 粘質土層：細砂、しまり弱、粘性やや強。
7. 10Y86/1 粘質土層：細砂、しまりやや弱、粘性やや弱、瓦を多量に包含する。
8. 2.5Y4/1 粘質土層：シルト、しまりやや弱、粘性強。
9. 10Y85/1 粘質土層：シルト、しまり弱、粘性強。
10. 10Y86/1 粘質土層：シルト、しまりやや弱、粘性やや強。
11. 2.5Y4/1 砂層：粗砂、しまりなし、粘性なし。
12. 10Y87/1 粘質砂層：極細砂、しまり弱、粘性やや弱。
13. 10Y87/1 粘質土層：シルト、しまりやや強、粘性やや強、地山。



写真2 3区東壁 (西から)

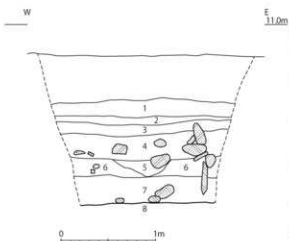


図6 7区北壁断面図 (S=1:40)

1. 雑土
2. 2.5Y7/4 粘質土層：シルト、しまりやや弱、粘性やや強。
3. 5Y6/1 粘質土層：シルト～極細砂、しまりやや弱、粘性やや強、30～50cm大の角礫を多く含む、瓦を多量に包含する。雑土。
4. 10Y80/1 粘質土層：シルト、しまりやや弱、粘性強、30～50cm大の角礫を多く含む、瓦を多量に包含する。雑土。
5. 10Y85/1 粘質土層：細砂、しまりやや弱、粘性やや弱、30～50cm大の角礫を多く含む、木片を多く含む。
6. 2.5Y8/1 粘質土層：シルト、しまりやや弱、粘性強。
7. N5/1 粘質土層：シルト、しまりやや強、粘性やや強。
8. 10Y87/1 粘質土層：極細砂、しまりやや弱、粘性強、地山。



写真3 7区北壁 (南から)

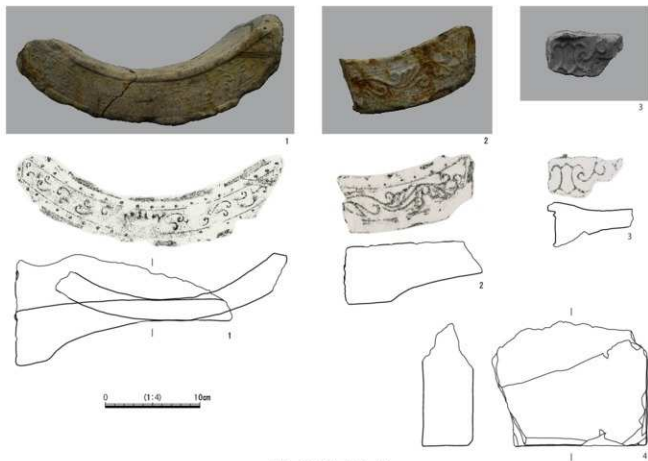


図7 出土遺物 (S=1:4)

報告書抄録

ふりがな	はりまこくぶんじあととはつちようきほうこくしよ							
書名	播磨国分寺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	姫路市埋蔵文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第47集							
編著者名	黒田 祐介							
編著機関	姫路市埋蔵文化財センター							
所在地	〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1 TEL (079) 252-3960							
発行年月日	2017年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はりまこくぶんじあと 播磨国分寺跡	兵庫県姫路市 御国野町国分寺396番2地	28201	020482	34度 49分 17秒	134度 43分 58秒	2016.3.10 ～ 2016.4.9	56㎡	店舗建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	遺跡調査番号			
播磨国分寺跡	寺跡	奈良時代	—	瓦	20150518 20160005			

例言

- 本書は、姫路市御国野町国分寺396番2地で実施した播磨国分寺跡の発掘調査報告書である。
- 発掘調査は、事業者と委託契約を締結し、姫路市教育委員会が実施した。
- 発掘調査は、姫路市教育委員会生涯学習部埋蔵文化財センターが担当した。
- 本書の執筆・編集は姫路市埋蔵文化財センターがおこなった。
- 調査に関する写真・図面等の調査記録、出土品は姫路市埋蔵文化財センターに保管している。
- 標高値は、東京湾平均海水準(P)を基準としている。方位は座標北を示す。
- 土層図の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修「新版標準土色帖」に準拠した。

姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第47集 播磨国分寺跡発掘調査報告書

発行日 平成29年(2017年)3月31日
 編集 姫路市埋蔵文化財センター
 〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1
 発行 姫路市教育委員会
 〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目1番地
 印刷 株式会社デイリー印刷
 〒671-0218 兵庫県姫路市飾東町生7-2